

「山取苗の植え付け」と自然観察を実施 ~ 『土湯の森』の自然再生に向けて ~

梅雨入り間近となった6月14日(土) 最上川スキー場跡地で「山取苗の植え付けと自然観察」を行いました。

植え付けたブナやイタヤカエデなどの300本の苗は昨年、古口小学校の5年生が中心となって山取してくれたものです。

当日は、先輩から受け継いだ苗を今年5年生となった児童と保護者や地元住民、神室山系の自然を守る会など



親子でブナの植え付け

55名により、スキー場跡地でもっとも植生の回復が遅れている箇所へ「大きく育て」と願いを込めて植え付けをしました。

植え付け後は、「木っけん」と銘打ち、輪切りした円盤上でジャンケンをするネイチャーゲームで体を動かして楽しんだ後、空飛ぶタネの模型づくりを行いました。



タネの模型で飛び方を学習

子供たちは、タネの模型を飛ばしながら、形で飛び方に違いがでることに関心を持ってくれたようです。

また、上昇気流に乗っていつまでも下りてこないタネの模型を追いかける姿がとても印象的でした。

野鳥観察では、ホオジロやウグイスなど野鳥のさえずりが聞こえる中、設置した望遠鏡に興味津々の子供もいて、ずっと望遠鏡から離れず覗いている姿も

見られました。

参加してくれた子供たちには、普段と違う遊びを楽しんでもらえたようです。

昼食は、角川のお母さんたち手作りの森の恵みを使った角川弁当をみんなでおいしくいただきました。

今年の取組は「みどり環境税」の交付を受けて実施しています。



山取苗のリレー運搬



「木っけん」どっちが勝ち？



遠くまで見えるなあ~



参加者の皆さん